

日点委通信

No.20

2004年11月1日発行

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、2004年5月29日・30日の両日、横浜市都筑区の障害者研修保養センター「横浜あゆみ荘」において、第40回総会を開催し次の事項を協議した。

1. 委員等の交替・補充について

盲教育界代表委員の塩谷治氏（元筑波大学附属盲学校）は原田早苗氏（筑波大学附属盲学校）に、田中和子氏（元大阪府立盲学校）は安井正明氏（京都府立盲学校）にそれぞれ交替した。盲人社会福祉界代表委員の藤野克己氏（元視覚障害者生活情報センターぎふ）は高橋恵子氏（視覚障害者総合支援センターちば）と交替した。塩谷治氏（全国盲ろう者協会）・藤野克己氏（神奈川ワークショップ）の両氏は学識経験委員として選任された。また、木塚泰弘会長から事務局員として委嘱された白井康晴氏（東京点字出版社）が総会で承認された。

2. 点訳における中点の使用について

点字触読者にとって読みやすくかつ墨字の意味合いを反映させた中点の使用について協議を重ねてきた関東地区点字研究会のまとめを踏まえて、原田早苗委員から、中点を墨字の原文の表記どおりに用いる3か条提案がなされ、検討課題となった。

3. 漢字や仮名で書き表された単位の切れ続きについて

加藤三保子事務局員から、漢字や仮名で書き表された単位の切れ続きについて検討を重ねてきた東北点字研究会の成果として、複合名詞の一つである「単位」についてはひと続きに書くことを原則としながらも、一般書では「意味の理解を損ねない範囲で区切って書いてもよい」と変更することはできないかとの提案があり、協議の結果、検討課題となった。

4. 国語教科書点字版における「古文の分かち書き」について

尾関育三氏から、古文の分かち書きについて「語と語の文法的関係」をできるだけ

正確に表すような表記を守ってほしいという趣旨の意見発表があった。

5. 「アルファベットと英語の表記」について

金子昭委員によってまとめられた、外国の語句や文を日本語の文中に引用する場合の標記の解説文について協議し、「日本の点字」第30号に掲載することとした。

6. 国際英語点字協議会第3回大会の概要報告

2004年3月29日から4月3日にかけてカナダのトロントで開催された標記の会の概要とその動向について、同大会に出席した日本大学短期大学部の山口雄仁氏を招いて報告を受けた。

7. 点字に関する歴史資料について

金子昭委員を中心に、復刻・出版を前提に収集を進めている点字に関する歴史資料一覧を報告し、入手可能な追加資料があれば、至急日点委事務局まで連絡をしてほしい旨の依頼をした。

加藤俊和委員、点字楽譜国際会議に参加

2004年9月23日から26日にかけて、スイスのチューリッヒで開催された世界盲人連合の点字楽譜国際会議（The International Conference on Braille Music Notation）に日本点字委員会から点字楽譜担当委員の加藤俊和氏（京都ライトハウス）が1992年に引き続き参加した。今回の協議題は「グレゴリア聖歌の特有記号・補助記号の位置づけについて」「点字楽譜変換ソフトウェアに必要な仕様について」「世界盲人連合の小委員会の構成と組織」の3件であった。

小学校の国語の教科書に取り上げられている点字について

平成17年度から使用される小学校の国語の教科書は、光村図書・学校図書・大阪書籍・教育出版・東京書籍の五つの出版社から発行されている。その5社の検定本では、いずれも3年か4年の教材に点字が取り上げられていて、点字そのものは紫外線硬化樹脂などで印刷されている。

盲学校小学部用の点字教科書の原本になっている光村図書の『国語』では、4年上（かがやき）の「調べて発表しよう」という単元に大島健甫の「手と心で読む」という文章が〈資料〉として掲載されていて、点字の五十音と数字が添えられている。そ

のほか、点字本と点字盤、点字を読んでいる両手、点字を書いているところ、地形図、自動券売機、エレベーターのボタン、施設内の案内図などが写真で掲載されている。

学校図書の『小学校国語』では、4年下の「意見を伝えよう」という単元に黒崎恵津子の「点字を通して考える」という説明文があって、点字の五十音・数字とともに凸字のアルファベット、バルビエの12点点字、ブライユの点字配列表、石川倉次案の点字等が紹介されている。そのほか、写真でルイ・ブライユ、石川倉次、日本語の凸字、電話やエレベーター等に付いている点字、切り込み付きのカード類、シャンプーに付いているサインやノンステップバスなども添えられている。

大阪書籍の『小学国語』では、3年下の「わかりやすくまとめよう」という単元に「点字と手話」という伊藤隆二の説明文があって、点字の五十音と数字が添えられている。「点字と手話」の文章には録音図書のことも紹介されていて、録音図書制作の一場面が写真で掲載されている。ちなみに、手話については、「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」といった挨拶言葉の手話が挿絵になっていて、手話講習会の写真が添えられている。そのほか指文字の五十音も挿絵になっている。

教育出版の『ひろがる言葉』では、4年下の「見方を変えて話し合おう」という単元の『『便利』ということ』という太田正己の文章の後に「ポスターセッションで発表しよう」という活動で点字の五十音と数字が取り上げられている。そのほか、券売機や駅などの手すりに付いている点字、触知図式の施設内の案内板、点字ブロックなどが写真で掲載されている。

東京書籍の『新しい国語』では、3年下の「よりよいくらしについて話し合おう」という単元で「もうどう犬の訓練」という吉原順平の解説文を学習した後の発表教材として「いろいろなつたえ方を知ろう」という学習コーナーがあり、交通信号や道路標識、消防自動車のサイレン、電話のベルなどと並べて手話を取り上げられている。点字は五十音と数字が、〈資料〉として最後の1ページにまとめて紹介されている。

「日本の点字」第30号の編集内容について

「日本の点字」第30号は、宮村健二委員の巻頭言「点字と電子」（仮題）、国際英語点字協議会の動向、日本文中におけるアルファベットや外国語の表記、小学校の教科書に取り上げられている点字、点字関係文献目録、「日本の点字」第1号からの総目次などでの編集・発行を予定しています。